

Ingolf Turban

インゴルフ・トゥルバン



ベルリン及び、ミュンヘンのフィルハーモニー、ケネディセンター(ワシントン)、エイブリーフィッシャーホール(ニューヨーク)、トーンハレ(チューリッヒ)、ウィーン楽友協会ホール、ミラノ・スカラ座での公演にソリストとして出演し、セルジュ・チェリビダッケ、シャルル・デュトワ、ロリン・マゼール、ズービン・メーター、ユンディ・メニューイン、準・メルクル、フランツ・ヴェルザー＝メスト、佐渡裕、アンドレアス・ネルソンス、マルチェロ・ヴィオッティらと共演。

レパートリーは多岐にわたり、ヴァイオリンのための主だった作品のほか、演奏される機会のまれな作品を取り上げ、紹介する活動も積極的に行っている。

特筆すべきニコロ・パガニーニの作品の取り組みでは、2006年にニューヨークフィルとヴァイオリン協奏曲全6曲の録音(テロスレコード)を行なった。またドキュメンタリー番組「パガニーニの謎」(メルクアTV2006)へも出演している。

これらの膨大なレパートリーは40枚以上のCDに記録されており、氏の録音によって注目を集めた作品の中には、その後演奏会のスタンダードプログラムとなったものも多く、その功績は大きい。(ディスコグラフィーは別紙参照)2005年には室内楽オーケストラ「ヴィルトゥオーゾ・ディ・パガニーニ」を設立した。

世界的な演奏家であると同時に、熱心な教育者でもあるインゴルフ・トゥルバンは、2006年までの11年間、シュトゥットガルト音楽演劇大学に教授として招かれ後進の指導に専心したのち、現在はミュンヘン音楽演劇大学に籍を移し教鞭を執っている。

家族と共にミュンヘンに在住している。

経歴:

- 1964年 ミュンヘンに生まれる。12歳よりゲルハルト・ヘッツェルのクラスに入門する。
イエーツ・エラーマン、ドロシー・ディレイの講習会に参加する。
- 1985年 21歳の時にミュンヘンフィルの第一コンサートマスターとなる
- 1986年 セルジュ・チェリビダッケの指揮のもとシベリウスのヴァイオリン協奏曲を演奏しソロデビューを飾る
- 1988年 ミュンヘンフィルを退団し、ソロの活動に専念する
- 1991年 ミラノ・スカラ座デビュー及びワシントンでアメリカデビュー
- 1995年 シュトゥットガルト音大の教授に就任
- 2006年 ミュンヘン音大の教授に就任

楽譜の監修(ヘンレ社)

- サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン 作品20
- サン＝サーンス: ハバネラ ホ長調 作品83
- ドビュッシー: 前奏曲集第1巻より「ミンストレル」
- チャイコフスキー: 憂鬱なセレナード
- クロイツェル練習曲(2019年夏出版予定)